

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 17 年 10 月 27 日 (2005.10.27)

【公開番号】特開 2003-124810 (P2003-124810A)

【公開日】平成 15 年 4 月 25 日 (2003.4.25)

【出願番号】特願 2002-200750 (P2002-200750)

【国際特許分類第 7 版】

H 0 3 M 1/10

【F I】

H 0 3 M 1/10 C

【手続補正書】

【提出日】平成 17 年 7 月 4 日 (2005.7.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アナログ信号をディジタル表現へ変換する方法であって、
N 個の時変基準信号を発生し、N が 1 以上の整数である第一のステップと、
前記アナログ信号の振幅を前記時変基準信号のそれぞれの振幅と比較し、前記アナログ信号の振幅が前記時変基準信号のそれぞれの振幅を越えるか、等しいか、満たないかを判定する第二のステップと、
前記アナログ信号の振幅が前記時変基準信号のそれぞれの振幅に等しいときにタイムスタンプを生成し、前記タイムスタンプが振幅等値事象の記録である第三のステップと、
を含み、
前記ディジタル表現が前記タイムスタンプの集合であることを特徴とする方法。

【請求項 2】

各前記タイプスタンプは、ディジタル信号の論理レベルの遷移からなることを特徴とする請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記ディジタル信号の各論理レベルの遷移について、ディジタルタイムスタンプを計測および生成するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記第二のステップが、前記アナログ信号の振幅を前記 N 個の時変基準信号のそれぞれの振幅と同時に比較するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 3 のいずれかに記載の方法。

【請求項 5】

前記第二のステップが、前記時変基準信号の全ての振幅と比較し終わるまで、前記アナログ信号の振幅を前記 N 個の基準信号のそれぞれの振幅と逐次比較するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項 1 乃至請求項 4 のいずれかに記載の方法。

【請求項 6】

前記アナログ信号が周期的な信号であり、
前記第二のステップにおいて、前記 N 個の時変基準信号のそれぞれが、前記アナログ信号の異なる周期において、前記アナログ信号と比較されることを特徴とする請求項 1 乃至請求項 5 のいずれかに記載の方法。

【請求項 7】

前記第三のステップが、前記アナログ信号の振幅が個々の前記時変基準信号の振幅よりも大きいときに前記個々の時変基準信号に対応する第１の論理レベルを前記デジタル信号内に確立し、前記アナログ信号の振幅が個々の前記時変基準信号振幅よりも小さいときに前記個々の基準信号に対応する第２の論理レベルを前記デジタル信号内に確立するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項１乃至請求項６のいずれかに記載の方法。

【請求項８】

前記タイムスタンプの集合と前記時変基準信号とから前記アナログ信号を再生するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項１乃至請求項７のいずれかに記載の方法。

【請求項９】

前記タイムスタンプの集合を格納するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項１乃至請求項８のいずれかに記載の方法。

【請求項１０】

前記タイムスタンプの集合を格納するステップを、さらに含むことを特徴とする請求項１乃至請求項９のいずれかに記載の方法。